

「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」更新案についての地域説明会概要
(唐木田)

開催日時 平成28年10月5日(水) 18:30~20:30

開催場所 唐木田コミュニティセンター(からきだ菖蒲館) ホール

参加者 41人(うち職員・議員6人)

【質疑・意見交換(概要)】 (○…参加者、⇒…市の回答)

- 策定時に廃止となっていた聖ヶ丘図書館が「存続」になった。方向転換となった大きな力は市民であることをはっきりしてほしい。プログラム策定時に、今後の超高齢化社会で財政が立ち行かなくなるので地域図書館をなくすとしながら、パルテノン多摩の改修になぜ80億円も使うのか。
- 図書館に地域包括支援センターの機能を入れるのはおかしい、撤回してほしい。地域図書館を潰して機能を入れるのは間違いである。図書館の蔵書数を減らさないでほしい。地域図書館を充実し、高度な専門知識を持った司書を配置してほしい。唐木田図書館は民間委託だが、経費で見ると、直営より委託の方が高くなっている。市職員の人手がないために委託しているのか。
- 図書館は身近な地域で利用するのが一番である。図書館本館まで歩いていけない人は多い。なぜ図書館本館を建て替えるのかの概念がない。
- 今後高齢化が進み、市の税収も減少する。現在も市民税よりも固定資産税の方が多い。その中で、パルテノン多摩の多額な改修費用をかけるのはおかしい。都市計画税が使えるからよいというものではない。大きなハコモノを作ると維持費がかかる。パルテノン多摩を改修すると、一体費用はいくらになるのか。
- ⇒策定からこれまで様々な検討をしてきた。政策情報誌を全戸配布することで市民の皆さんに情報をお伝えし、ワークショップを開催し、身近なサービスとは何かを検討した。その中では、高齢者や子どもの居場所、交流の場、相談機能が必要であり、身近な場にそれらの機能が必要との声も多く頂いた。図書館も多くの方が集まる場所であり、交流の場になっているという話も聞いている。それらの中で検討して今回の内容とした。また、図書館については、図書館本館と地域図書館のネットワークがあるからこそ生きてくる。地域とのネットワークをどう築いていくかを、図書館基本構想策定委員会で検討している。
- ⇒多摩市は、多摩ニュータウン開発により、鉄筋コンクリートで大規模な建築物が多い。企業誘致が進んでいることで、企業の固定資産税に助けられているのは事実である。多摩市は非常に地盤がよく、いい場所とのことで、大企業のデータセンターが進出している。高齢化が進み、市民税の税収が減少している。減った部分を埋めるだけの30代・40代の市民が少ない。日本全国が人口減少社会であり、様々な対策を講じている。多摩市の都市計画税の積立額は現在約30億円ある。この額をパルテノン多摩の改修費用に充当する想定である。これまで支払っていた清掃工場とヴィータコミュニエ、公園等のローン返済が終わる見込みがたっている。

- 何か問題があった時のために、都市計画税を積み立てておくのは良いことである。あるから使うというのはおかしい。
- 市民一人に5万円払わせて、パルテノン多摩を改修するのはおかしい。地域図書館は、プログラム策定時に廃止するとの方針を示し、市民が反対して存続することになったが、市の哲学がないのはおかしいのではないか。
- ⇒都市計画税をすべて使い切るのではなく、今後の都市計画、公園改修等も見据えて、計画的に使う見込みが立っている。
- パルテノン多摩は誰が建設したのか。
- ⇒市である。市が建設費用を拠出し、国から一部補助を受けている。
- 多摩市にこの大規模施設は荷が重すぎるのではないか。市民だけで約80億円出すのではなく、東京都等から補助も受けるようにして、できるだけ負担を減らしてほしい。
- ⇒少しでも負担を軽減するように努力する。
- 地域図書館は存続するからいいというのではなく、中身が重要である。地域包括支援センター機能は、図書館に併設するものではない。図書館を縮小しないでほしい。当初は廃止だったが、市民の声を取り入れて「存続」となったことは評価する。市民のコミュニティの場として非常に大切な場である。市民の意見を生かしていただきたい。
- ⇒関・一つむぎ館に地域包括支援センターが入ることになった。各地域施設の中で地域包括支援センターの機能、相談機能をどのように持たせるか。地域の連絡協議会の皆さんと一緒に考えていきたい。今後の高齢化も見据えた機能の転換も考えていく必要がある。
- 地域包括支援センターを併設することだが、図書館本館、地域図書館の機能を見直し、地域図書館の空きスペースで整備するように聞こえる。
- ⇒現在、本の所在地がないことで、返却された地域図書館で本が保管されるため、一連で本を見たくても各図書館に点在している状況もある。本館に集約し、本館に行けば揃う体制とし一定の集約をして、利便性を上げるような手法が考えられないか。詳細は、現在、基本計画策定委員会で検討している。
- 唐木田図書館は子どもの絵本コーナーがあり、いい図書館を作ろうという姿勢が感じられ、地域に密着した非常に良い図書館である。策定委員会で図書館機能を検討しているが、それらの意見も尊重した上で取り組んでほしい。策定委員会の資料はホームページに掲載されているが、非常に膨大で、読むのに時間がかかる。各図書館に配置している資料ファイルは、できればもう1冊ずつ配置してほしい。
- 図書館は存続と言いながら、各論44ページの方向性は「検討」となっている。「存続」と書き直してほしい。
- ⇒図書館全体の仕組みを見直していく中で運営体制等について検討することから「検討」と記載したが、分かりにくかったようである。表現を工夫したい。
- 政策情報誌(vol.1.3)と各論44ページの内容は齟齬がないのか。44ページの表現は抽象的すぎてわからない。唐木田図書館は存続するが、中身を検討してスペースが縮減される可能性もあるのか。
- ⇒可能性がゼロであるとは言い切れない。
- 現在のアカデミーヒルズの用地に図書館本館を整備することだが、現在の本館と同

じくらの規模が確保できるのか。

⇒現在の旧校舎約 6,000 m²のうち、図書館として開いているのは約 3,000 m²である。同規模は確保できる想定である。

○策定時に約 90 億円不足すると言いながら、今回の見直しで廃止から存続になった施設が増えると、次世代にしわ寄せがいつてしまうのではないか。

⇒策定時には、約 90 億円の不足のうち、賄えるのは約 30 億円で、約 60 億円は不足という試算をした。策定時からこれまでの変化として、都市計画税が充当できるようになり、一般財源を使わずにパルテノン多摩の改修等に充当できる見込みが立った。策定時より、財源が一定の部分は見えてきた。

○たま広報 10 月 5 日号の 1 面でパルテノン多摩の改修について掲載されていたが、パルテノン多摩を改修することで、市民の福祉や教育に影響は出ないのか。

⇒財源が異なる。たま広報でお示ししたとおりである。

○今回の更新案は、市民の要求を全て入れてツケを先送りにしている印象である。計画を策定する際には、30 年・50 年後のイメージで考えてほしい。

○パルテノン多摩を改修して本当に集客が見込めるのか。庁舎の移転問題があるならば、図書館、ホールと一緒に合築してはどうか。

⇒今後、若い世代が多摩市に来るような街を目指して、将来を見据えて計画を進めていきたい。

○唐木田図書館の椅子が固く、長時間座ってられない。もう少しクッション性のある椅子にしてほしい。

○唐木田図書館の棚は、図書館用の棚ではない。当初、「廃止」という方向性を出した際、市はよく調べないで方向性を出したのではないか。発表してから、どれだけ市民に使われていたかが分かったと思う。もっと住民の立場になって、図書館は更に充実するようにしてほしい。唐木田図書館スタッフの対応が良いので、他の図書館も見習ってほしい。

○具体的な取組みを記載する際に、「精査」と使っているが、日常的な言葉ではなく、曖昧な表現である。図書館本館ばかりが立派になり、地域図書館が名ばかりにならないようにしてほしい。

⇒読む人にとって受け止め方が違うので、分かりやすい表現となるよう工夫する。

○本日の説明会の意見も、ただ単に意見として承りましたではなく、必ず活かしてほしい。

○図書館があるからこそ、若い人が施設に来るということもある。図書館は単独施設ではなく、複合的な要素がある。是非、発展させる方向としてほしい。策定時の計画は他自治体の参考程度だったのではないか。

⇒多摩市は全国でもトップをきってプログラムを策定した。他自治体ではもっと厳しい条件としているものもある。全国の自治体で施設問題は逃れられない問題となっている。施設を維持していくためには、市民の皆さんの税金で支えるしかなく、皆さんに何らかの我慢をしていただく部分があるかもしれない。だからこそ、市民の皆さんの声を伺っていきたくて考えている。

○唐木田図書館は、児童館の子どもたちの声が聞こえ、床が板の間で歩く靴の音が鳴り響く。本来、図書館は静かな空間で本に触れる場所である。近隣自治体では、小さくても

- 立派な図書館、充実している図書館があり、地域の特色がある。是非参考にしてほしい。
- 政策情報誌（vol. 3） 5 ページ・「ひじり館・からきだ菖蒲館」に「地域包括支援センター等の併設を検討します。」とあるが、併設するなら図書館を残すという意図なのか。図書館は現状のまま存続してほしい。
 - 図書館本館の予定地は、中途半端な位置にあり、車でも行けない、駅から歩いても遠く、何のメリットがあるのか。便利さを感じない。策定委員会の資料・議事録がホームページで公表されているが見にくい。サマリーにして分かりやすくなるように、工夫していただきたい。情報をもっとオープンにしてほしい。
- ⇒地域包括支援センターの機能は、今後話し合いを進めていくが、他の地域包括支援センターの面積はおおよそ 30 m²である（関・一コミセンの場合）。例えば、図書館でお母さんが子どもに読み聞かせをする時に、近くに気軽に相談できるスタッフがいるというイメージができないかを考えている。図書館本館予定地は行きづらいのではないかとの意見もあるが、今回のパルテノン多摩改修以外にも、周辺の多摩中央公園、ペデの改修等をしてリニューアルし、市民の皆さんが使いやすい多摩センター地区にしていく計画である。
- 庁舎の移転にあたっての検討で、多摩センター駅前が候補地に挙がっているようだが、庁舎、図書館本館と併設してはどうか。
 - 図書館本館の場所等は、いつまでに決めないといけないのか。当面は今の場所にして、しばらく様子を見てはどうか。
- ⇒各施設の進捗状況については、どこまで進んだのかを毎年報告するように変更する。今後、メリット・デメリットも十分検証して検討していきたい。
- 策定からこれまでに、市の姿勢も少しずつ変わってきており、希望をもってきた。是非、市民の声を生かしてほしい。